

このコーナーでは、進路指導や学習指導において心がけていることについて、読者の先生方から寄せられたコメントを紹介する。

今回のテーマ

「成績が伸び悩んでいる生徒に、 どのような声かけや指導を行っていますか」

▶▶ 結果が出るまでに時間がかかることを伝えて励ます

模試の返却時などに、「スランプや学習時間に比例して成績(得点)が伸びない時期があるのは、当たり前。続けていけば必ず、成績が伸びる」と話している。

受験に向けて勉強を続けても成績が伸びない生徒には「成績が伸び始めるまでは3カ月から5カ月かかる。でも、我慢して続けていないと伸びる可能性は0になるよ」と声をかけています。

どのように勉強しているかを確認した上で、先輩や卒業生の事例を紹介しながら、「今はまだ結果に出る前の段階。根気よく続けていこう」と激励するなど、常に個々の状況に応じたアドバイスを心がけています。

毎日の学習時間が増加しているにもかかわらず、成績が伸び悩んでいる生徒には、本人の頑張りをしっかりと認めつつもう少し辛抱して勉強し続けるように促します。若い世代は身近な他人に認められることが大きな自信に繋がっていくようです。

「模試が入試を左右するわけではない。入試に合格することを目標にしよう。それだけでなく、一生学び続けることが大切だ」と伝えている。

努力しているが成績が伸びない生徒に対しては、「成績は右肩上がりです。伸びるものではなく、階段のステップのように上がるので今は我慢の時だ」と励ます。努力の仕方にも問題がある場合も考えられるので、普段の学習状況も確認する。

何事にも上達にはプラトー(高原期)があることや、誤答の中にも生徒の進歩を見出して伝えることにしています。進路室に相談に来た機会を捉えたり、何気ない雑談からきっかけを作ったりしています。

▶▶ 話す機会を増やす

たまたま会ったときの面談のほか、順番を決めた面談も行っている。順番を決めておかないと目立たない子は後回しにな

りがちになるため。この両方で一人あたり5回以上の面談を行えるようにする。数をこなすことを主眼にして、やる気を出させるようにしている。

面接の回数を増やして、話す機会を多く持っています。問題意識を言語化できれば次へ進めますし、少なくともいらいらのはけ口になれば次が見えると考えて、気楽な雑談面接を取り入れています。特別に呼び出すとかえって緊張してしまうので、試験ごととか、土曜講座の後などを利用して順番制で回しています。

成績の伸び悩みの裏に、心に抱えていることや家庭の事情などもかかっているかもしれないので、何気ない会話からいろいろ引き出すようにしています。

▶▶ 生徒に問いかける

なぜ成績が伸び悩んでいるかを生徒自身に考えさせて、書き出させることによって今後の学習指針を与える。

模試の自己採点后、全然点が伸びないと言っている生徒に、どの科目のどの分野ならまだ伸びそうかを聞き、まずはその科目・その分野から「模試見直しノート」を作ってもう一度深くように指導しています。

教科を担当している生徒が志望を下げようとした時などに、塾に頼りきりになったり、ノートをきれいに書いて安心してしまったりしていないか、学習に対する姿勢等を問いかけている。

▶▶ 学習習慣・生活習慣を見直させる

まず、学習時間が確保されているかを話し合い、生活にリズムをつけさせるように指導しています。それができている生徒には、集中と休憩の緩急について話し合います。生徒面談を年6回は行うので、その中で確認していきます。

生活習慣を確認し、生活リズムの確立を促す。また、清掃活動などに積極的に参加することで、精神的なゆとりを持つことを勧める。